



山形県木材産業協同組合

〒990-2473 山形市松栄 1-5-41
TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699
URL:<http://www.mokusankyo.com>
E-mail:yamawood@mokusankyo.com

- 目 1 新年の挨拶 4 木材利用ポイント申請率全国上位を確保!
2 会議・イベント案内等 5 住宅着工戸数等
次 3 協和木材進出を巡る意見交換会を開催



1 新年の挨拶

(1) 理事長 沖田純夫

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年一年間、木産協の事業推進にご協力いただき、誠にありがとうございます。

昨年は、増税の反動で県内の着工戸数も大きく下落し、一年を通して厳しい事業環境でありました。

一方で異常気象、環境問題等で森林・木材に関する認識が深まった年でもあります。

大型公共建築物の木造化の推進や木質バイオマスとしての利用、また大型集成材工場の進出、施工業界等の木材利用ポイント取得への積極的な関わり等、我々業界を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。我々は新しい流れや変化に対応できる体制を整えて変化から取り残されることのないように相当の決意を持って臨むことが重要です。又、国や県行政に対しても業界の体質強化について、しっかり要請していく必要があります。

昨年は全国育樹祭も大変高い評価をいただき、また林業まつりも大盛況で終始しました。会員の皆様のご協力に感謝いたします。

新しい年は住宅着工が減少傾向にあるなか、非住宅部門の市場が広がり、また新規の需要が新たな価格体系と流通を生み出す事例が増えていきます。戦後70年を迎え、木産協も40周年の節目の年になります。歴史に学び、新たな価値観と秩序のもと、会員の皆様の奮闘とご多幸をお祈りします。



しなやかに、激動を乗り切ろう!!

(2) 副理事長 阿部 昭

謹んで初春のお慶びを申しあげます。本年もよろしくお願ひ致します。

昨年の11月、2年後に庄内地方を中心に開催される第36回全国豊かな海づくり大会式典会場記念講演会が地元酒田市で行われ、基調講演者、漁業関係者二名と共に林家側パネラーとして出演する機会をいただいた。

基調講演者の畠山重篤氏は宮城県気仙沼市で、家業の「牡蠣養殖業」を営む傍ら、NPO法人「森は海の恋人」を主宰し、海の環境は、川、山から守られている事の大切さを提唱し、漁師仲間と共に広葉樹の植林を実践し「森は海の恋人運動」として、三十年以上各地で公演

等の活動をしている方である。討論の中で山の現状と課題について質問される場面があった。

その問いに、①戦後の造林事業で植林した人工林が利用期を迎えているが、住宅需要の落ち込み、木材に代わる工業製品の開発などで需要が拡がらないこと。②外材輸入が激減しているにも関わらず材価は低迷し、30年前の半分以下に止まっていること。③その為に森の手入れが進まず荒廃森林が増加していること。④また酒田飽海地域内利用はこの地域内伐採量に対して約20%程度しか利用されていない現状を報告した。

これを少しでも改善するためには除伐・間伐等山の手入れを積極的に進め、良質な酒田市産材を生産していくことと同時に、行政側も含め皆様から大いに利用していただき需要を拡大することが何よりも重要であることを訴えた。利用率を高めることで地産地消の好循環が生まれることの大切さを提起させていただいた。

それに対する畠山氏からのコメントは厳しかった。「自分が上手くいかないのは、何でも他のせいにしていないか。私は自らの意志で仲間を募り賛同者を得て歩んできた。誰かとか行政をあてにしたことはない。自らの責任において活動してきたことで、仲間をつくり共感を得ることができたと思う。まずは、行動を起こすことが大事ではないか。そこから生まれるものがかけがいのない友をつくり、貴重な財産となる。」

厳しい景況の舵取りに右往左往している自らの責任をストレートにご教示いただいた。覚悟はあるのか。揺るぎ無い志は持っているのか。ブレなく足元を見失わない大切さを改めて教えられた感謝の一日となった。

昨年は噴火、洪水、地震と各地で被害が頻発した。東日本大震災の復興も思うように進んでいない。木材利用ポイントも終了の見込み。株高円安。消費税は先延ばし。米価は大幅下落。県内に大型集成材工場進出のニュース。新築住宅着工は前年比20%以上の落ち込み。師走選挙は地方創生の声は期待するも、二年前の政権交代の盛り上がりは無く終了。思い返すも内外共に厳しく変化の大きい一年であったように思う。

今年は「乙未」年。何事にも節度を持って調和を大切に作る年。変化があることが普通の時代と理解しながらも、平々凡々では済むまい。読み切れない難しい一年になることは間違いない。苦しくて幸いあり、楽しんで福なし。芯を持ち、しなやかで息遣いが聞こえるような生き方を今年も一日一日積み重ねていきたい。

結びに、皆様の御多幸を心よりお祈り致します。

(3) 副理事長 松田 賢

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も宜しくお祈り申し上げます。

2013年の新設住宅着工戸数は①雇用環境の改善②低金利③復興需要④消費税アップ前の駆け込み需要等が重なり、987千戸と、前年度比10.6%増(4年連続増加)となり、業界全体が潤った年でした。しかし、増税後は一転してマイナス基調。反動減に加えて人手不足や資材高騰で当面厳しい状況が続くとみられます。予定されていた第2次消費税アップに向けた駆け込み重要が無くなることから、住宅ローン減税や「住まい給付金」等の下支えはあるものの、新設住宅着工数は減少が続くと考えられます。

野村総合研究所の発表では新設住宅着工数は、2020年度には75万戸、25年度には約62万戸になると予測しています。また、期待しているリフォーム市場規模を現在の6.7兆円から2020年度の6.0兆円、25年度は6.1兆円と予測しています。今後は、住宅・住生活の質的向上に向けて、リフォーム、中古住宅流通の活性化が必須となると思われます。

大手ハウスメーカーは、経費、コストの削減を計画した上で、構造体や環境を考慮した差別化を前面に出し、経営強化を強力に推し進めてくると思われます。

大手パワービルダーは、潤沢な資金力を背景に土地と建物のセット販売で、一時取得者向けに攻勢を強める動きです。

木産協として、地場ビルターや地場工務店とどのような協力体制が可能なのか？地域性や差別化を含めて考える必要があるのかもしれませんが。

結びに、今年一年の皆様方のご隆盛と、ご多幸をご祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。

(4) 木材産業功労者賞受賞の挨拶 鈴木隆一 (前朝日町・大江町製材協組選出理事)

第49回全国木材産業振興大会の席上、全木協連会長賞の榮譽に浴し、誠に有り難うございました。これもひとえに、県木産協の沖田理事長様をはじめ、各役員の皆様及び組合員の皆様のご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

地区の前任者の名代として、無役の私が県木産協の理事会等に出席し、先輩諸兄の皆様方のご指導・ご鞭撻を受け、恙無くその職を努めさせていただきました。本当に月日の経つのは早いものです。

その間、木材業界もずいぶんと変化していますが、公的には現在、業界の川上の方には素晴らしい風が吹いています。しかしながら、危険・暗い・つらい・不況等々がこの業界の相変わらずの実感です。

今回の全国木材産業振興大会の宣言決議前段で、「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興 ～木材利用で街に第二の森林を～」との項がありました。視点を変えたアイデアで木材産業の再興を成しとげようと言う、知恵を使って、「木」に「気」を入れストーリーを売る。それが森林・林業・木材業界関係者が一体となった木材利用拡大だと深く感じさせられました。

微力ながらこれを機に、県木産協の発展に尽くさせていただきますので、今後とも、皆様のお一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2 会議、イベント等のご案内

(1) 「素材生産、製材・木質バイオマス関連調査」への御協力をお願いします！

12月上旬に、組合員を中心に標記の、素材生産及び製材・木質バイオマスのアンケート調査を実施しています。この調査は県などが、木質バイオマス発電や集成材工場の誘致等に伴い、どのような支援策を講ずるか等の基礎資料となる大切な調査で、「木産協」を信頼して依頼してきているものです。趣旨をご理解いただき、「至急」提出くださる様お願い致します。森林組合にも同様の調査をお願いしておりますがほぼ集まっております。

(2) 木産協役員会の開催

ア.日時 平成27年1月19日(月)午後 イ.会場 山形市内ホテル会議室 ウ.別途案内有

(3) 第7回山形県木材利用ポイント事業推進協議会の開催

ア.日時 平成26年1月22日(木)午後 イ.会場 山形市内ホテル会議室 ウ.別途案内有

(4) 山形県林政推進町村長懇談会等が主催する「新春林政講演会」の開催

ア.日時 平成26年1月28日(水)14時半～ イ.会場 パレスグランドール(山形市)

ウ.講師「遠藤日雄」氏 エ.申し込み 山形県森林協会まで(電話023-666-4331) オ.その他 無料

3 「協和木材」進出に関する意見交換会を開催

昨年 11 月に判明した、協和木材株式会社の新庄地区への進出に関して、木産協三役会議に基づき、協和木材や県担当者の出席も要請しながら、県内 4 カ所で意見交換会を開催した。協和木材側は進出の目的や狙い、協調の方法等について基本的な考え方を述べ、それに対して参加組合員等から様々な質問がだされ、今後の継続した話し合いの契機が作られたものと考えている。出席状況及び交換された意見の概要については次のとおり。



村山地域での意見交換会状況

12 月	会 場	出 席 者 数 (名)					摘 要
		木産協	整備協連	協和木材	県行政等	計	
10 日	最上総合支庁	15	0	3	4	22	
15 日	置賜総合支庁	12	0	3	5	20	
16 日	庄内総合支庁	17	1	3	4	24	
22 日	村山総合支庁	22	1	3	11	37	森林管理署 2 名含
合計		66	2	—	22	103	

○意見交換の概要(主要)

1 素材関係者 (質問と回答)

- (1) 素材の購入方法と価格 → 団体等経由と共販による購入や国有林の立木買等を想定している。現在工場は無いので、購入価格は市場価格と考えていただきたい。
- (2) 素材の品質と量の確保の方法 → B材 (長さ 2 m のみ) だがトビ等の欠点がひどいものは該当せず、所定の規格があり合板より高品質の素材がもとめられる。12 万 m³ の素材については県内からの集材を目指す、必要な場合は県外からの入荷もありえる。
- (3) 県産材も欠点が多い中で、規格に該当する量について調べたのか。 → 少し調べている。福島県「塙」工場でも懸念されたが、現在 1 万 m³/月の入荷が実現している。また、山形県森連からも毎月 1 千 m³ を供給していただいているが、今のところ問題は無い。
- (4) 協栄会組織について → 地域での集材が困難な場合は、購入林分を地域の素材生産者に請負わせる形態も考慮する。
- (5) 端材の処分方法について → 自社の燃料のほか製紙チップや木質バイオマス、家畜敷料等として販売する。
- (6) 素材生産者への支援内容 → 森林経営計画等の作成及び補助事業等取り組みの支援を行う予定。

- (7) 大量に生産される C、D 材の購入について → 必要があればバイオマス資材として集めることも想定している。
- (8) 伐採後(皆伐)の植林等について → 所有者に対しては高価格で買い取ることや補助事業で植林を勧めることにしている。自社での植栽は現在考えていない。
- (9) 素材業者との接触について → まだ接触は行っていない。
- (10) 杉以外の素材について → 松なども可能である。

2 製材関係者(質問と回答)

- (1) 大量に生産される A 材の処分 → 地域の製材業界から購入願いたい。
- (2) 集成材用ラミナの購入 → 品質や価格の問題もあり購入は考えていない。(検討はする)
- (3) 工場の規模や敷地の活用 → 約 40ha の敷地は傾斜もあり全て使えるものでないが、将来的には CLT 等についても検討していきたい。

3 流通関係者(質問と回答)

- (1) 製品の種類 → 3m の管柱である。(3 寸 5 分、4 寸角)
- (2) 集成梁等の生産 → 予定はしていない。
- (3) 販路はどうするのか。また製品の地元への販売はあるのか。
→ 大手住宅メーカーが外材集成材を使用する例が多く、それを国産材に転換することを目的としている。販路は、静岡以北が主で、大手住宅メーカーが主な取引先となる。ただし、地元からの要望があれば検討したい。

4 県に対しての要望

- (1) 現在の県内の素材生産業界は目一杯の働きで 25 万 m³ 程度であり、機械化や作業人員の育成確保がなければ素材の集荷は困難と思われるので、これら視点からの支援を強力に願いたい。
- (2) 大型工場への支援と併せ、中小の意欲と特色のある製材工場等へも同様の支援を行いバランスを取る必要があるのではないか。
- (3) 現在流通している材の流れが、一方向にならないように県で指導して欲しい。
- (4) 特に、同時に生産される C、D 材の活用については、県からも支援をお願いしたい。
※ 県からは、これら要望に対して様々な支援策を検討したいという回答があった。

5 その他

今後の県内木材業界に与える影響は相当大きなものと予測され、多くの方が様々な危機意識をお持ちかと考えていたが、木産協 150 社のうち約 4 割の参加であった。欠席の方には、協和木材の進出内容やこれまでの木産協の対応等についての資料を別途お送りします。

なお、今回は第 1 回目の意見交換会であり、今後、組合員も業態(素材、製材加工、流通)の違いにより、影響が異なることが予想されることから、2 回目以降は必要に応じて部会的な形態を実施したいと考えている。協和木材側も必要に応じて出席いただけるとなっている。

さしあたり、素材関係の会議を 1 月中に開催したいと考えているので、関心のある方はご出席願います。(案内は別途差し上げます)

4 木材利用ポイント申請率は全国上位を確保！

(1) 山形県の交付率は全国 10 位レベル!!!

昨年 1 年間の木造住宅着工戸数と、木材利用ポイント交付件数（新築のみ）で、全国の各県を概数的に比較すると、本県の場合は、約 4 戸に 1 戸の割合でポイントが交付されている。

これは、全国 10 位に相当し、東北ではトップクラスにある。木産協組合員等が高い関心の下に、施工業界や施主様等をご指導いただいた結果と考えている。

今後、一昨年 4 月～昨年 9 月までの、ポイント該当期間の木造住宅着工戸数等を各県別に集計し、全国事務局でのポイント交付件数等（リフォームを除く）を比較し、精査することになっている。
(11 月末の交付件数等集計)

順位	都道府県名	木造住宅 着工数 A	交付件数 B	交付割合 B/A%	参考 (人口・万人)
1	宮崎県	4,449	2,060	46.3	112
2	熊本県	6,326	2,919	46.1	180
3	佐賀県	3,106	1,163	37.4	84
4	沖縄県	527	192	36.4	142
5	鹿児島県	6,413	2,228	34.7	168
6	長崎県	3,524	1,178	33.4	140
7	福岡県	14,669	4,462	31.8	509
8	大分県	3,845	1,101	28.6	118
9	富山県	4,672	1,167	25.0	108
☆10	山形県	4,807	1,168	☆24.3	114
12	宮城県	13,007	2,920	22.5	233
15	福島県	9,403	1,985	21.1	195
18	秋田県	4,462	845	18.9	105
30	岩手県	6,417	955	14.9	116
42	青森県	5,076	496	9.8	134

※人口から着工数の絶対的に多い県や 50 万ポイント獲得が可能な県は件数が多いので申請率で比較。

年明けからポイント申請は最後の追い込みに入る。昨年 4 月から今年の 9 月までに着工した木造住宅のうち、一定の条件をクリアしたものは、新築であれ、リフォームであれ、ポイント申請が可能である。これまで、県内には約 4 億円相当額が交付されています。5 月末まで申請は可能なので、全国上位を目指してひと踏ん張りしましょう。

(2) 県内のポイント申請の状況

11 月期は、70 件の申請であり落ち込みがあったが、12 月期は 86 件と盛り返している。これまで、申請がなかった工務店等からも申請するケースも目立ってきている。ポイント制度も後半に入り、県民の皆様に着実に定着しつつあるようだ、「林業まつり」や「環境展」でのアンケートでも「ポイント制度」の認識は、今年の 3 割程度から 6 割に伸びている。

また、せっかく相談に見えても、着工期間が該当しない等のケースもあり、もっと早く制度を知っていただければと悔やまれるケースも出てきている。組合員も納材の履歴等からポイント該当の可能性のある物件について、工務店等に積極的に PR をお願いしたい。この配慮が厳しい時代に必ず生きてくるものと思う。

県内での受付件数 (12月26日現在) (Pは申請ポイント数)

窓口名		昨年8~10月	11月	12月	合計	割合%
木産協	件数	462	29	37	528	40.4
	P数	141,062,000	8,715,000	11,282,000	161,059,000	
建設労組連合会	件数	59	10	10	79	6.0
	P数	18,063,000	3,000,000	3,000,000	24,063,000	-
山形建設労組	件数	152	2	4	158	12.1
	P数	36,681,000	600,000	1,200,000	38,481,000	-
金山町森組	件数	44	6	5	55	4.2
	P数	11,784,000	2,220,000	1,500,000	15,504,000	-
米沢建築組合(連)	件数	84	4	15	103	7.9
	P数	25,261,000	1,410,000	4,520,000	31,191,000	-
田川建設労組	件数	161	11	10	182	13.9
	P数	52,533,000	3,400,000	3,000,000	58,933,000	-
酒田飽海建設 労組	件数	182	8	5	195	14.9
	P数	54,344,000	2,400,000	1,500,000	58,244,000	-
やまがたの木 乾燥センター	件数	7	0	0	7	0.5
	P数	2,100,000	0	0	2,100,000	-
計	件数	1,151	70	86	1,307	100
	P数	341,828,000	21,745,000	26,002,000	389,575,000	-

(3) 「テツ and トモ」がすすめる「木のある暮らし」フェスティバルを開催

12月28日(日)、山形市内の「イオンモール山形南」＝通称「南ジャス」において、標記のイベントを開催し、会場は大勢の県民の皆様で埋め尽くされた。

県木材利用ポイント事業推進協議会では、木材利用ポイントや地域材活用のPRを兼ねて、画期的な人気コメディアンを活用した、地域材PRイベントを行ったもの。

イベントは、3部構成で、1部はポイント利用協議会の沖田純夫会長からイオンモール山形南のGM藤村拓夫氏に対し、「金山杉のベンチ4脚」の贈呈式を行った。2部は世界最大の「けん玉」の産地である長井市の「けん玉プロジェクト」のメンバーによる「けん玉ふれあい広場」を開催し、大勢の子供たちにその楽しさを教えた。3部は「テツ&トモ」のお笑いライブだが、その歌(なんでだろう～)の内容に「木材の機能や森林の役割」などを盛り込んだ歌を披露することで、木材等の素晴らしさを印象づけることを目指したもので、新しい視点でのイベントとして大成功であった。

また、会場デコレーション等については、木産協組合員等からご協力をいただいた。

(匠まさの、柿崎製材所、スペースパーツ山形、庄司林業、シェルター、JAS製材協議会、チェンソーアーティスト栗田広行氏) 会場を盛り上げる「テツ&トモ」と「けん玉プロジェクト」



5 11月期住宅着工状況

平成26年11月期の県内新設住宅着工戸数は、対前年同月比77%の465戸となった。利用別では、持家239戸で69%、貸家179戸で80%、分譲住宅46戸で131%等となっている。全国的には11月期は当月及び累計で前年比14%及び12%の減で、本県の落ち込みは10ポイントほど高い。消費税引き上げが延期され駆け込み的な需要が見込めない状態が続いている。消費税が上がった後は、少子化等から一段と建築市場が縮小するとも言われ、このような展望の中で、時折の特需に期待すること無く、各社どのような戦略を立てるかが課題である。

1 県内新設住宅着工戸数(平成26年11月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別				資金別		木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
22年	4,125	2,533	1,140	40	412	3,777	348	3,319	80.5%	2,479	112	728
23年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
25年	5,323	3,543	1,372	21	387	5,136	187	4,515	84.8%	3,453	152	910
25.10月	584	384	158	2	40	577	7	507	86.8%	388	16	103
11月	602	344	223	0	35	596	6	488	81.1%	356	17	115
12月	502	294	151	4	53	490	12	409	81.5%	267	23	119
26・1月	234	135	48	34	17	201	33	160	68.4%	120	8	32
2月	362	166	131	23	42	360	2	275	76.0%	194	9	72
3月	295	189	91	1	14	291	4	255	86.4%	204	10	41
4月	431	270	113	9	39	400	31	406	94.2%	353	12	41
5月	349	228	88	7	26	326	23	293	84.0%	229	11	53
6月	529	291	190	0	48	515	14	415	78.4%	290	13	112
7月	364	204	124	1	35	316	48	300	82.4%	212	13	75
8月	361	223	90	3	45	357	4	305	84.5%	245	7	53
9月	377	203	127	0	47	358	19	332	88.1%	223	5	104
10月	395	199	144	3	53	384	11	353	89.4%	227	7	119
11月	465	238	179	2	46	445	20	377	81.1%	261	7	109
対前月比	117.7%	119.6%	124.3%	66.7%	86.8%	115.9%	181.8%	106.8%	-	115.0%	100.0%	91.6%
対前年同月比	77.2%	69.2%	80.3%	-	131.4%	74.7%	333.3%	77.3%	-	73.3%	41.2%	94.8%
25.1~当月計	5,362	3,529	1,402	48	383	5,130	232	4,497	83.9%	3,460	142	895
26.1~当月計	4,162	2,346	1,325	83	412	3,953	209	3,471	83.4%	2,558	102	811
対累計前年比	77.6%	66.5%	94.5%	172.9%	107.6%	77.1%	90.1%	77.2%	-	73.9%	71.8%	90.6%

2 地域別新設住宅着工戸数(平成26年11月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計	市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	465	4,162	77.2%	77.6%	3,471	大蔵村	0	12	-	240.0%	12
山形市	122	1,143	80.8%	75.3%	842	鮭川村	2	4	-	66.7%	4
上山市	9	67	90.0%	66.3%	66	戸沢村	0	3	-	50.0%	3
天童市	32	319	62.7%	69.5%	258	最上地域	24	166	150.0%	90.7%	153
山辺町	4	76	57.1%	115.2%	72	米沢市	57	440	59.4%	81.5%	385
中山町	2	19	15.4%	39.6%	18	南陽市	22	148	146.7%	102.1%	146
東南村山	169	1,624	72.8%	74.1%	1,256	高島町	6	61	100.0%	67.0%	59
寒河江市	39	163	144.4%	65.5%	133	川西町	7	50	700.0%	166.7%	50
河北町	5	52	71.4%	53.1%	51	東南置賜	92	699	78.0%	86.7%	640
西川町	0	14	-	350.0%	14	長井市	3	155	33.3%	95.7%	146
朝日町	0	23	0.0%	255.6%	23	小国町	0	9	-	75.0%	9
大江町	0	16	0.0%	61.5%	15	白鷹町	4	29	57.1%	56.9%	28
西村山郡	44	268	112.8%	69.4%	236	飯豊町	3	30	-	120.0%	29
村山市	2	34	40.0%	44.2%	33	西置賜	10	223	62.5%	89.2%	212
東根市	40	261	88.9%	73.7%	204	置賜地域	102	922	76.1%	87.3%	852
尾花沢市	12	25	1200.0%	65.8%	23	鶴岡市	23	376	53.5%	82.6%	310
大石田町	0	6	-	54.5%	6	三川町	1	41	12.5%	83.7%	32
北村山	54	326	105.9%	67.9%	266	庄内町	1	67	5.3%	87.0%	65
村山地域	267	2,218	82.9%	72.6%	1,758	田川	25	484	35.7%	83.3%	407
新庄市	17	110	121.4%	98.2%	98	酒田市	46	315	85.2%	71.3%	267
金山町	3	8	-	72.7%	8	遊佐町	1	57	16.7%	132.6%	34
最上町	0	5	0.0%	21.7%	5	飽海	47	372	78.3%	76.7%	301
舟形町	2	17	200.0%	141.7%	17	庄内地域	72	856	55.4%	80.3%	708
真室川町	0	7	-	87.5%	6						